

1 組織

- (1) 東京都立松原高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（進路指導部主任）、主任教諭（生活指導部主任）
教諭（教務部主任） 計6名
- (3) 協議委員の構成
学識経験者（大学学部長他）、警察署（係長）、消防署（所長）、地域自治会（副理事長他）
PTA会長、同窓会会長、校長が認める者（教育関連企業事業部長） 計12名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
 - ア 第1回 令和4年6月17日（金）対面にて開催
協議委員委嘱、評価委員選出、令和3年度学校経営計画説明
 - イ 第2回 令和4年12月7日（水）対面にて開催
上半期の進捗状況報告、学校評価アンケート説明
 - ウ 第3回 令和5年3月23日（木）対面にて開催
教育目標達成に向けた取組報告、学校評価アンケート集計結果報告
- (2) 評価委員会
 - ア 第1回 令和4年12月7日（水）対面にて開催
学校評価アンケートの質問内容について検討、集計スケジュール確認
 - イ 第2回 令和5年3月23日（木）対面にて開催
学校評価アンケートの集計結果における分析及び検証について

3 学校評価アンケート調査報告

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の課題解決に対する意欲」「学校の取組」「学校の成果」
- (2) 実施時期・対象・回答数
 - ア 2月 全校生徒 対象：15名 回答：10名（回答率 67%）
 - イ 2月 全保護者 対象：14名 回答：4名（回答率 29%）
 - ウ 2月 地域 対象：20名 回答：0名（回答率 0%）
 - エ 2月 教員 対象：8名 回答：7名（回収率 88%）
- (3) 評価項目
「学校生活全般」「学習指導」「生活指導」「進路指導」「スクールカウンセラー」「給食」
「学校ホームページ」「学校施設」「ライフ・ワーク・バランス」の9領域25項目
- (4) 評価結果の概要
各評価結果を集計し、肯定的及び否定的な傾向、生徒・教員・保護者の意識傾向差を確認した。

(5) 評価結果の分析・考察

今年度から調査方法を「アンケート用紙への記述回答」から「FORMS による入力回答」に変更した。全体的な傾向として「回答者割合の激減」と「否定的回答割合の増加」が挙げられる。「通信端末機器アプリへの不対応」と「筆跡が残る『記述回答』より率直な意見反映」の結果と考えられる。

ア 全校生徒

肯定的回答が過半数を占めるが、質問項目によっては否定的回答割合が 20%~30%存在している。学校生活を楽しく過ごし、本校に入学して良かったと感じている生徒が大半であるが、「楽しい授業」「分かりやすい授業」「補習の充実」等、学校の魅力をより一層高める努力が必要である。

イ 保護者

保護者からの回答者割合が激減したが、学校の様子を生徒が話していることにより肯定的な回答は 70%以上である。特に「子供を、松原高校に入学させてよかった」が肯定的意見 100%であった。HP の更新、こまめな電話連絡など保護者に向けた情報発信や連携の手段をさらに検討していく必要がある。

ウ 地域

下高井戸商店街振興組合を通して地域への依頼となったが、回答方法を「FORMS による入力回答」に変更したことにより回答者は 0 人となってしまった。今後、アンケートの回答方法を従来の「アンケート用紙への記述回答」に戻すことも検討しなければならない。

今年度も防災教室や文化祭などの学校行事を外部との連携・公開を行うことができなかったため、地域の人に対して情報発信をすることができなかった。地域に対しての情報発信や連携などを工夫して行くことが課題である。

エ 教員

全ての項目で肯定的回答が過半数を占めるが、「生徒への補習対応」「生徒の遅刻」「計画的なキャリア教育」の意識について否定的な回答が約 30%~40%となっている。放課後や長期休業期間中の補習授業の充実、学校全体での遅刻指導の改善、キャリア教育の計画改善など教員間の更なる意識向上を図る。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 保護者の肯定的な回答が高い割合である

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり、保護者や地域の人々に十分な情報発信ができず、またアンケート回答方法の変更により回答率は昨年度より激減してしまった。そのような状況ではあるが保護者の回答が昨年度同様、肯定的な回答が高い割合である結果が表れた。

イ 保護者と教職員の学校生活満足度

学校生活に関する満足度は、教職員、保護者が、肯定的な回答が多く、授業や学校生活、生活指導や進路指導において信頼できる学校として保護者は捉えている。

(2) 課題

ア 「アンケート回答者割合の激減」と「否定的回答割合の増加」

今年度から調査方法を「アンケート用紙への記述回答」から「FORMS による入力回答」に変更した。全体的な傾向として「回答者割合の激減」と「否定的回答割合の増加」が挙げられる。「FORMS への不対応」と「筆跡が残る『記述回答』より率直な意見反映がされた」結果と考えられる。

イ 地域との交流

下高井戸商店街振興組合を通して地域への依頼となったが、回答方法を「FORMS による入力回答」に変更したことにより回答者は0人となってしまった。今後、アンケートの回答方法を従来の「アンケート用紙への記述回答」に戻すことも検討しなければならない。

近隣の大学や地元商店街と連携を図っているが、地域の人たちに十分知られていないことが多くあるため、今後も継続的に評価委員と協議を行い、回答しやすいアンケートだけではなく、本校の活動を知ってもらえるよう地域に根差した情報発信も工夫する必要がある。

5 学校運営連絡協議会や学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

ゆっくり、しっかり、一歩ずつ学びを深める教育力をもって、生きていく力を育む。

(2) 学習指導

学習課題の把握に努め、「楽しい授業」「分かりやすい授業」で基礎学力をしっかりと定着させる授業実践を推進する。

(3) 生活指導

挨拶を励行し、ルールやマナーを重んじた授業規律を基盤とした生活指導を推進する。

(4) 特別活動

多様性を尊重し、学校生活にゆっくりと順応する交流や協働体験を推進する。

(5) 進路指導

関係機関と連携し、社会とのつながりを一歩ずつ体感させるキャリア教育を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合（協議委員12名）

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
1	2					9

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

特になし